

第102号  
2010年5月1日発行

# 愛道

あいどう



テーマ 「発見」

社会福祉法人 足羽福社会

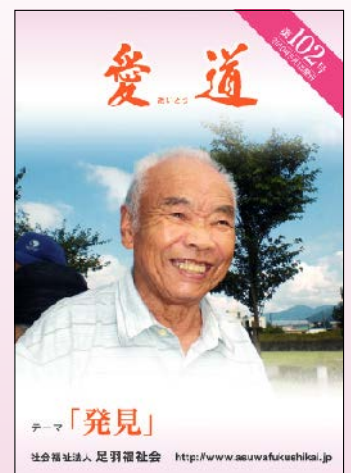
<http://www.asuwafukushikai.jp>





## 目次 もくじ

- 3 平成21年度 足羽福祉会 交流会アルバム
- 4 **足羽東保育園**  
心で聴こう、子どもの言葉 伝えたいメッセージって？
- 6 **足羽学園**  
心安らかに生活するために ～行動の背景に目を向ける～
- 8 **足羽更生園**  
私たちの「グッドネス」 ～気づきを成長に～
- 10 **足羽ワークセンター**  
ともに働きながら ～変化すること～
- 12 **愛全園**  
机に向かっても聞こえる
- 14 **足羽利生苑**  
「偲ぶ会」を通して ～Yさんとの思い出を胸に～
- 16 平成22年度 足羽福祉会 新任職員紹介
- 18 愛のささえ



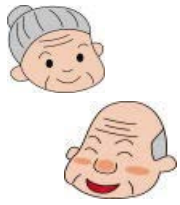
### 表紙について

「太陽」のような明るい笑顔は、  
まわりの人の心をあったか～  
くしてくれます(^v^)

田中義信さん、ポッカポカの笑  
顔、いつもありがとうございます。

(足羽利生苑 前田)





# 平成21年度 足羽福祉会 交流会アルバム



## 春



### お花見

春といえば”桜”  
満開の桜並木の下  
思わずニッコリ♡



## 夏



### 七夕

笹の葉サラサラ♪  
短冊に願いごと☆  
叶うといいなあ…



### 流しそうめん

～夏の風物詩～  
園児、お年寄りの方  
共に「一心不乱…」

## 秋



### まき 槇山ハイキング

自然の空気を感じ  
ながら、汗をかき  
山を登りました!



### 芋掘り

～さつま芋～  
みんなで協力して  
”大収穫”



### レクリエーション交流

前号でも掲載しました  
当会のメイン  
イベント



# 心で聴いて、子どもも言葉

## 伝えたいメッセージって？

子どもの言葉は不思議で神秘的です。子どもの言葉にじつと耳を傾けていると、独り言をつぶやいていたり、聞いたことを繰り返したり、聞いていたりします。また、子どもの考えていることを知りたくて話しかけると、思わぬ答えが返ってきたりもします。

今回は、子どもの言葉が意味しているものは何か？言葉に秘められた想いなどを紹介します。

大丈夫だよ、先生

「早くご飯食べようね。それから歯磨きして、おしっこして、もうお昼寝の時間だね。」

「先生、忙しい言葉だねえ。」  
(ゆっくり口調)

子どもはじっくり大人の言葉を聞いていて、それに伴う動作や表情も読み取っています。保育士が慌ただしく動き、子どもたちに声をかけている姿を見て、ひとときわゆっくりと『先生そんなに急がなくてもいいよ』と心にゆとりを持つことを教えてくれたように感じました。

おなじ言葉の世界

「ボク、きのう天神講でカレイ食べたよ。」

「ボクも食べたことある。カレイ、お母さんが作ってくれたんや。」

「一緒やね。天神講って神様なんやよ。」

「そうなんや。こんなながあいい紙なんがぁ。」



「カレイとカレイ」

「紙」子ども同士の話の中には、勘違いがあっても思いは伝わっているかのように会話成り立つことは珍しくありません。同じ発音の言葉で意味が違ってても、子どもにとっては、普通に会話できているのだと気づきました。

なんでやろ？

「私の歯、まだはえてないの。お母さん、なんで植えてくれないんかな？」

「先生、結婚したんやって。名前も変わったって。でも…。声も顔も同じやった。なんでやろ？」

子どもの発想は愉快で、いつも『なんで？なんで？』と疑問に思っています。自分の周りで起こる出来事の原因や大人の事情など、難しすぎることは理解できない



自然の不思議

「パパのおててに赤とんぼがとまったの。お空は青かったのに…。」

感受性豊かな子どもたち



## こんなおもしろい言葉も

保育士:おしっこに行ってくるからお部屋で待っていてね。

子ども:おしっこ?

保育士:そう。すぐ帰ってくるね。

子ども:先生、そこにオマルあるよ。

\*くつ買ってもらった。でも先生は履かれないよ。もう少し待っててね。私みたいな足になったら履けるから。

\*先生ほら、立ってパンツはけたよ。私のお父さんもパンツ立ってはけるようになったんだよ。

A子:お父さん、会社にゴミ持っていくんや。

B子:なんでや?

A子:行ってきまーすゆうてそれからゴミもつんやもん。



いかもしれませんが。でも、子どもなりに『こうだからかな?』こうなのにな『など、よく考えていることが何気ない言葉から伝わってきます。

### 心のサイン

「泣いていないよ。涙が目のところは固まっているだけなの。」

「ごめんなさいは言わないよ! だつて心の中で言つたもん。」

子どもは自分の本当の気持ちを隠して強がったり、素直になれなくてつい発してしまふ言葉があります。反発しているように思われがちですが『私の気持ちを

分かつて』と、相手にサインを送っていることに大人が気づき、想いをくみ取ってあげることが大切だと思ひました。

その時々、子どもの

言葉が生まれた情景を思い浮かべると、見えなかった子どもの世界に気づくことができます。

子どもからの言葉にもっと向き合い、その奥に隠された『心』を感じ取れる大人でありたいと思ひました。

### みんなの広場

## 環境のアイデア

足羽東保育園では、子どもに伝えたいことを絵や文字で掲示し、目で見えてわかるようにしています。

### 〈廊下は歩こう〉

走っていた子どもカードを見てテクテク。

### 〈このお部屋かな〉

各お部屋の看板を見れば一目りよう然。



「曲がり角も安全」



「走るのストップ」



「紙はこっちだね」



「かわいい絵で表示」

すれちがいもぶつからないよう、右側通行で。

燃えるゴミ? 燃えないゴミ? 自分で考えポイ。



# 心安らかに生活するために

## 行動の背景に目を向ける

を少しでも和らげ安心して生活ができる支援を目指し、研修が始まりました。

### 行動を読み取る スキルアップ

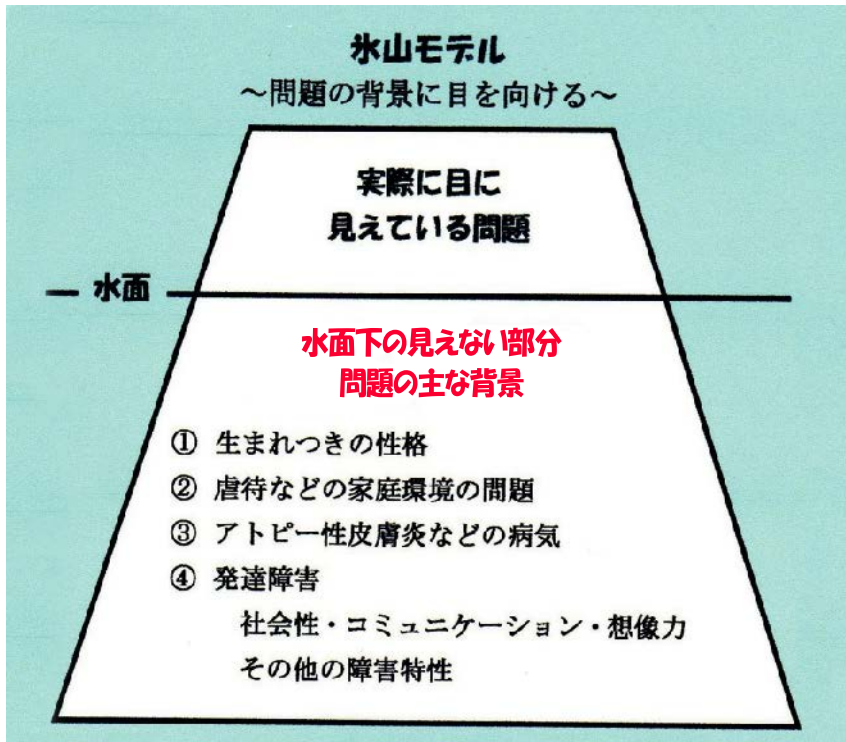
図は水面下の見えない部分の背景をしっかりと理解

足羽学園には外部から講師を招き、職員の方の思いを知るための研修があります。その中で取り上げた「Dさん」に対する支援から得られた職員の気づきを紹介します。

Dさんは嶺北養護学校に通う中学部2年の元気な男子です。

行動の面では、身軽で、高い所に登ったり、外に出ることが大好きなのですが、危険を予測しながら行動することが難しい方です。

情緒の面では、心が穏やかであるときと、そうでないときでは明らかに行動や表情に違いがあります。穏やかでないときの苦しい気持ちを理解し、その気持ち



したうえで、実際に目に見えている行動を考えなければならぬことを意味しています。

Dさんは「あつ」という間に柱や窓枠をつたって高い所に登り、上からの眺めを楽しんでいました。

職員にはとても登れるような場所ではなく、見守りながら降りてくるように声をかけることしかできませんでした。

そこで講師のアドバイスをもとに、そのような行為が見られたときには、すべの職員が同じ口調、同じ表情で危険な行為であることを伝えるよう、統一した支援を行うようにしました。よく登る場所には、目で見てわかるように「登ってはダメです！」シールを貼りました。

また、高い所に登ること以外でDさんが好きな遊びや活動を提供し「することがなくて時間があるなあ・・・じゃあ登ろう」と考える時間を減らすようにもしました。しかし、その行動は減りませんでした。

Dさんの行動を観察していると、あるとき原因の一つにたどり着きました。

居室には天窓があり、網戸を固定するために付いている、ひも状のゴム製品を取り外し、それで遊ぶことが目的だと分かったのです。



1時間でも2時間でも楽しめます！

それが分かってからは、ガラス屋さん協力をお願いし、廃材として処分され



るゴム製品をいただき、Dさんが欲しいときにいつでも遊べるようにしました。すると居室の窓に登ることがほとんど無くなったのです。

また、その行動が減ったもう一つの原因として、この一年でDさんの身長と体重に大きな成長があり、身体ひとつで高い所に登ることができなくなっていたことにも気づきました。身体の成長からも行動に変化が表れることを知ることができました。

どの利用者の方もすべての行動には何らかの意味・原因がありそれを知り、理解することが支援を始める第一歩になること、行動の意味を理解して支援方法を考えなければ、根本的な解決にはならないことがよく分かる経験でした。

## 生活の見直し

自閉症のDさんにとって、心が穏やかでなくなる一つの原因が考えられました。

毎週末の帰省のことです。「次も本当に帰ることが出来るのか?」「今からどのくらい待てば迎えに来てくれるのだろうか?」と、自分の帰省予定が分からず、不安な気持ちから落ち着けず、険しい表情になっていました。

そこで、Dさんが帰省の見通しを持ち、安心して生活が送れることを目標にして支援内容を考え、進めてきました。

ご家族には「毎週同じ曜日の同じ時間帯にお迎えに来てもらう決まった時間帯に足羽学園に戻ってもらう」ことを協力していただきました。それにより、職員は、いつDさんに次の帰省の予定を聞かれても同じ返事ができるようになりました。

また、Dさんの部屋に専用のカレンダーを設置することになりました。設置当初は、1週間分のカレンダーを試し、Dさんがカレンダーの意味を理解できてくるのか、Dさんに入ってくる情報量として適

当であるかなど、様子と理解の状況を確認しながら幾度も作り直してきました。



自分で「おわり」の箱に片付け

現在は3日間のカレンダーを使用し、その中にDさんの家の写真(帰省の日を意味する)が出てくると、写真を触って笑顔が見られるようになりました。

いろいろな事情から予定が変更になるときもありますが、この支援を始めてからは、余暇を利用して簡単な課題に取り組むことができるほど、表情も穏やかに落ち着いて生活を送っています。



簡単な課題

## 努力をおしまず 寄り添う

すべての行動の背景を完ぺきに理解することは難しいです。しかし、すべての行動に意味があることを意識し、理解する努力をおしまずに、利用者の方に寄り添う。それが私たち職員に最も必要な支援技術であることを感じます。

利用者の方が、日々の生活を安心して送ることができるように、職員は専門知識を得て、すべての職員が支援の質を向上できるように努めます。

## みんなの広場

足羽学園での  
楽しいひとコマ



私たち、ひな人形です!



真冬でもシャボン玉!

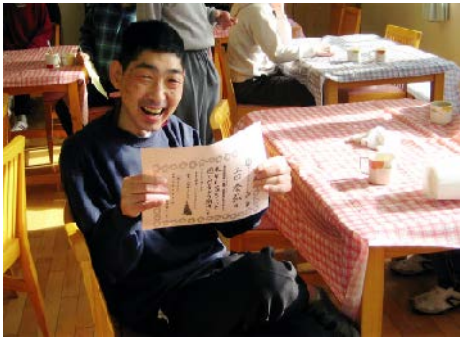


私は書道家! 和の心



# 私たちの「グッドネス」 気づきを成長に

足羽更生園では、利用者の方のいいところ、がんばっているところを見つけようという取り組みをしています。これを「グッドネス報告」と言います。「褒め・認め・一緒に喜ぶ」ことで成長につなげようとするものです。この取り組みを始め、私たち職員は、あらためて意識して、利用者の方とコミュニケーションを図ることによって、これまでになかった発見がいっぱいあることに気づきました。



年忘れ会で、利用者みなさんの1年のがんばりを表彰しました。

Yさんは、作業の開始時間間に合わないことも多く、作業の終わりがかけの時間に来ることも珍しくありませんでした。そんなYさんに、今までは「もつと早くきてください」「何をしたらんですか」というような伝え方をしてきたように思います。

しかし、いいところを探そうとすると「今日は、昨日より5分早く来ることができました」ことに気づけます。



「がんばりましたね」と認めること、褒めることで、Yさんの表情はとて面白い笑顔になりました。

クリップをハンガーに掛ける訓練的な作業です。褒めることで、Yさんの作業の参加時間が早くなりました。

このとき気づきました。今までどうして、褒めなかったんだろう、作業に来るだけでもがんばっているのではないか？ Yさんはすごい努力をしているのではないか：職員の価値観を基準にしている、利用者の方の目線に合わせていなかったのではないかと反省の思いにかられました。

それからは、小さながんばりを見つけられるよう意識し、どんどん褒めることにしました。そうすると、Yさんの作業に参加する時間が早まっていききました。今では、作業開始時間に来ることがとても多くなっています。

利用者の方を「褒める」ことの大切さに気づくと、自然に利用者の方のがんばりに気づくことができると思っています。

## グッドネス報告より 「こんにちは」

利用者Sさんが通院先の病院内を歩いていると、すれ違う男性の方に「ご本人の方から「こんにちは」と大きな声であいさつをされました。

男性の方は少しびっくりしたようですが、軽く会釈をしてくれました。その後、2階の待ち合い場で待っている、先ほどの男性の方がSさんを探して、「さつきはあいさつをしてくださいあってありがとうございます。すごくうれしかったです」とお礼をいただきました。



Sさんの目の高さに合わせてゆつくりとお札を伝えてくれる男性の方にSさんは「あと(ありがとう)」と繰り返し伝えていました。その様子を見ていた職員もとても心が温まりうれしかったです♪♪

あいさつの大切さをSさんから教わりました。ちよつとした言葉が、相手の気持ちをうれしくする力があることを、あらためて感じる出来事でした。

## 「心づかいを

## 発見・感謝」

「ちよつと来てみねのつ」と、利用者の方が職員を呼びに来られました。連れられてロビーに行くと、Mさんが職員用の干してあったエプロン、帽子、おしぼり、タオルなどをきれいに畳んでくださいました。Mさんに「手伝ってくれたんですか、ありがとうございます」

すね」と、お札を伝えると「なんも、いいんや」と照れくさそうでした。そのほかにも、野菜、花の水やりをMさんの方から「水やりしていい？」と率先して行ってくれます。Mさんのおかげで、トマト、ゴーヤ、ブロッコリーが順調に育ちました。

女子棟のみんなで育て、実った野菜をいただきました。とてもおいしかったですね。



ゴーヤを10本収穫して、ゴーヤチャンプル・ゴーヤの佃煮を作りました。

## 「縁の下の力持ち」

Aさんはいつも職員の仕事のエプロンを用意してくださいます。今日もロビーにある職員の出勤表を見て、食事支援の職員を確認してエプロン、帽子、台拭きを所定の台の上に置いてくれます。



食事前にもいつも、さりげなく用意してくれます。

職員がお札を伝えると照れくさそうに「うんっ」と応えてくれました。また、ほうきとチリ取りを持つ

て女子棟をいつもきれいに掃除してくださいます。女子棟の縁の下の力持ちAさん、いつもありがとうございます。

女性特有の優しい気遣いなのでしょいか、お互いが感謝し合うことで、とてもうれしい気持ちになることができます。

人を褒めることの大切さ、人は褒められることで、大きく成長することに気づきました。褒められているときの利用者の方の表情からは、喜びやうれしさが伝わってきます。

小さな気づきを喜びに変えながら積み重ねていくと、ふり返ったとき大きな変化になっていたことに気づくのもかもしれません。

このグッドネス報告を、機会があるごとに保護者の方にお伝えしています。

### みんなの広場

## 節水エコ知識

毎日の生活の中で、わかっているつもりでも、実はできていないことありませんか？

①歯磨きはコップ3杯水を30秒流しながら歯磨きすると30秒で6ℓも使います。コップ3杯との差は5ℓ以上にも！

②洗顔はため洗いで2ℓ水を1分間流しながら洗顔すると12ℓ使ってしまうため洗いの差は10ℓ！

③シャワーはちよつと短縮シャワーは10分間使うと120ℓも使用。シャワーを7分間に短縮するとその差は、36ℓにも！

1日の生活で欠かせない習慣を少し見直すだけでも約50ℓ以上の節水が可能です。

足羽更生園では、平成20年度にエコキュートを導入し、節水・光熱費の節約にも取り組んでいます。



# ともしに働きながら 変化する日々

いつも一緒に過ごしている利用者の方々が、日々の成長や変化が見えにくいところがあります。職員も改めて気づく利用者の方の変化。今回はその変化を職員、また、施設外の方にも聞いてみました。皆さんどういったことを見つけたのでしょうか？

## 企業とのかかわりのなかで

Yさんは足羽ワークセンターのケアホームを利用されています。ケアホームでの様子は一人部屋にすることがあり、静かに過ごされることが多く見られます。作業中はとても真面目で、黙々と作業をされます。

ふだんから施設外就労とし、荷物の運搬作業にたずさわっています。株式会社ジャストコーポレーションの田中さんとYさんの会話から職員が気づかされたことがあります。

### (田中さん)

Yさんはこの運搬作業を頑張っていたいていますね。表情も明るく頼りになる。気さくに話もされ、作業場自体が明るくなる。時折、出勤時に表情が暗く、気持ちが沈んでいるときもあるけれど、作業を始めると、元気が良くなり、終わるころには楽しそうに話をされている。Yさんは身体を動かすことが好きなのかな？ケアホーム

でも元気に過ごしているのでしょうか？

### (Yさん)

いつも元気や。コンテンツの作業が楽しいでの。

### (田中さん)

(Yさんに向かい)ケアホームではジュースの飲みすぎがあるって聞いたよ。ジュース飲み過ぎて身体壊したら作業にも来られなくなっちゃうよ。僕とジュースは1日1本って約束できるかな。

### (Yさん)

田中さんとの約束ならしっかり守ります！しっかりみていてください！

### (田中さん)

ちゃんと様子を支援員さんから聞くからね。

施設外就労先の方には作業の中で利用者の方の作業に関する支援を行っていたいでいます。田中さんのお話から、Yさんの生活の部分まで気づてくださることを知り、利用者の方々のことをじっくり見ていただいていることに気づきました。

まわりの方々の協力もあり、利用者の方の変化が生まれるということに気づかされました。



会話を楽しむYさん(右)と田中さん



荷物の積み下ろし作業中・・・。

## 互いに磨きあい ながら

足羽ワークセンター第2事業所・足羽サポートセンターには、ハローワークで雇用・求職申請を同時期に行った方がお二人いらっしゃいます。お二人が最近お互いを意識しあい変化をできています。

AさんとBさんはよく一緒に作業をされています。お二人の作業の様子をよく知る職員に最近の様子を聞いてみました。

AさんとBさんは同じ作業をしながら、どうしても作業の速度や正確性に差が生じてきてしまいます。それは仕方がないことなのですが、それまでのBさんはそれほど自分の作業が遅れることに疑問をいだくことはありませんでした。しかし、求職登録をお二人でして

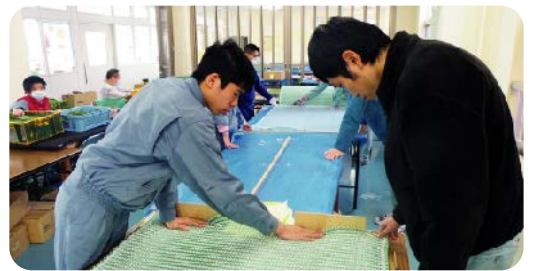
からBさんの中で何かが変わったと感じます。

作業中にもAさんの行動をまねしながら自分なりに作業の効率を上げようとする姿勢がみられました。また、返事やあいさつもBさんの中で意識して行おうとする様子が見られます。AさんもそんなBさんを見てか、一緒に作業を行うときに、自分のやり方や、工夫した点をBさんに伝える場面がみられます。

きっかけは本当にささいなことですが、利用者の方にとっては大きな変化をもたらしてくれるものと気づかされました。この良い状態がお二人をはじめ、他の利用者の方にとっても良い手本となることを願います。

職業指導員

山岸 優



ポイントを教えるAさん(左)とそれを聞くBさん(右)

お二人が行った求職登録がこんなにも大きな変化をもたらしてくれました。

職員にとっては日常に行っていることでも、利用者の方にとっては大きな変化をもたらしてくれ、るきっかけとなり得ることを感じました。

変化や気づきは日々利用者の方と過ごす中でたくさんあるものだと感じます。ともに働くからこそ、働くことを通しての気づきの、一つひとつを大切にしていきたいです。

みんなの広場

### ★発表★

## スキルアップコンテスト

平成22年3月3日に、福井県社会就労センター協議会主催の利用者の方の技術向上に向けた「スキルアップコンテスト」が開催されました。11施設、90名の参加者が、スピーチ、軽食作り、郵便袋詰め、電話対応の4部門に分かれ、互いに自分たちの力を披露していました。

その中の「接遇部門」(電話対応)で、足羽ワークセンターの寺野佐央里さんが見事1位という快挙を成し遂げました。ふだんは以前紹介した「議会食堂あすわ」で働いています。

☆寺野さん、おめでとうございます！☆





# 机に向かっても聞こえる

福祉の世界を全く知らなかった職員が、介護の現場で見つけたもの。ある事務員の経験を通して、福祉の仕事を考えてみました。

## 求められるもの

愛全園で仕事をするようになって8年が経ちます。はじめの6年間は、派遣社員として事務の仕事だけをしていました。一般事務しか知らなかった私には、聞きなれない専門用語を理解するだけでも大変でした。

## 事務の早出とは？

平成19年4月から開始。日曜と祝日を除いて、交替制で8時から(通常は9時)出勤します。介護部に協力するかたちで、主に朝食の介助にあたっています。

与えられた仕事を終わらせることで精一杯でした。事務だから利用者の方とかかわりを持つこともなく、また、それでいいのだと考えていました。

正職員となつてからは「仕事」の前には「愛全園の職員である」ことを求められていると感じます。周囲の期待に答えられない自分がいて、不安で悩んでいたころ、私にも早出業務の声がかかりました。正職員となつて、ちょうど1ヶ月が過ぎたころのことでした。



こんで最後ですからね～(平成22年1月・早出業務2年目)

うしても時間に追われがちです。事務部として協力できることは何か：介護部との話し合い

で決まったのが早出業務でした。

上司から「そろそろ早出をしてみようか」と声をかけられたとき私は、きつとひどく困った顔をしていただろうと思います。介護の経験がない私にできるのだろうかという強い不安がありました。

そんな私に上司は「最初からできる人はいないよ。初めは

みんなの仕事内容を見させてもらって、徐々にしていくようにすればいいから」と、やさしく送り出してくれました。

## さあ、初日!

いぎ、2階フロアに上がると「助かります。〇〇さんの食事介助お願いします」と、いきなりの申し出でした。

本当に何もわからないまま、食事介助に入ることになったのです。困った時に声をかけられる範囲に介護職員がいてくれたのは心強かったです。やはり不安でした。

私が不安な気持ちでいれば、利用者の方にも伝わってしまう、しっかりとしなければ!と言い聞かせました。時間は、かなりかかりましたが、利用者の方はおいしそうに食べてくれました。

## くもり時々晴れ

いつも、食べてもらえる日ばかりではありません。時には、なかなか食べてもらえない日もあります。時間ばかりが進んでしまい「自分は何をしに来ているんだろう。かえって迷惑を

## 平成20年5月

介護部の夜勤と日勤の入れ替わる朝の時間帯は、ど

# 家族で作ろう ロール白菜



【材料：4人分】

- ・白菜 1/2個
- ・合挽き肉 300g
- ・たまねぎ 1/2個
- ・パン粉 1/2カップ
- ・牛乳 50cc
- ・塩 小さじ1/2

A

- ・水 700cc
- ・だしの元 適量
- ・薄口しょうゆ 大さじ2
- ・酒 大さじ1・1/2
- ・みりん 大さじ2
- ・砂糖 小さじ1

だし汁

【つくり方】

- ①白菜は芯を切ってゆでます。  
大・小の葉を合わせて4枚一組にします。



簡単！  
まかせて♪

- ②Aをよく練り合わせ8等分したら①で包み、形を整えます。

☆アイデア☆

ほくらも手伝うよ！

巻き終わりをつまようじ代わりにパスタでとめれば型崩れせず、そのまま食べられます。



- ③できたものを、きっちり鍋にならべ、だし汁を入れます。中火で20分ほど煮れば完成です。

「けているんじゃないか」と落ち込むこともあります。そんな気持ちを利用者の方の笑顔が晴らしてくださいるのです。

利用者の方の中には見慣れない顔がいるなどという表情の方もいらっしゃいます。私が、私は明るく大きな声で「事務所にいる栗波です。よろしくお願います。私のことも覚えてくださいいね。」とあいさつします。わかった、わかったとうなずく方や、はにかんで笑顔を返してくれる方、いろんな反応が返



事務部職員 栗波・林・高嶋(左から)

つてきます。

利用者の方と笑顔のキャッチボールができたらいいな、そうなりたいたいなあと、考える自分がいました。そして、気持ちにゆとりを持つことを心がけるようにしました。

## 寄り添いケア

愛全園では「寄り添いケア」ということが、よく言われます。私なりに考え、利用者の方の手に触れ、お顔に触れて、スキンシップを取りながら食事の介助をさせていただいています。

一人ひとりの状態に合わせて声かけをしたり、経験を積み重ねていくことでしつかり食べていただけます。そこには笑顔や笑い声があり、達成感や自信も得られ

## あらためて思うこと

ますし、自分の成長を感じることできます。そして、その成長は、利用者の方からいただいたものだと思えます。ですから、最近では「寄り添いケア」を心がけることで、逆に利用者の方に寄り添われているようにさえ感じます。

つたり、精神的に追い込まれることもあります。そんなとき、利用者の方とのかわりで得た自信、達成感が心の支えになっています。

愛全園は、今まで働いてきた職場と違い「笑い声」が聞こえる職場です。事務所内で机に向かっていても、利用者の方の「笑い声」を感じながら仕事ができる喜びにやりがいを感じています。

栗波 和代



# 「<sup>し</sup>の 偲ぶ会」を通して

Yさんとの思い出を胸に

足羽利生苑では人生の終末期において『ああ、良い人生であった』とご本人やご家族の方が安心して最期を迎えられるような支援をめざしています。

その中で利用者の方が足羽利生苑または病院で天寿を全うされた後、介護職、看護職が集まり、その方を偲びながらこれまでのかかわりを振り返る『偲ぶ会』を設けています。今回は、その偲ぶ会の役割を紹介します。

## あふれる想い

偲ぶ会では、それまで利用者の方の生活にかかわって

### 偲ぶ会での職員の思い

(昨年お亡くなりになったYさんについて/一部抜粋)

- ・Yさんは、山形弁で話す親しみのある方でした。優しく声をかけていただきありがとうございました。
- ・歌が好きなので、職員と一緒にカラオケBOXによく出かけました。『あなたとカラオケ行くの楽しみなんや』と言われた一言がうれしかったです。Yさんと一緒に歌うことで昔の曲を知ることができました。本当にありがとうございました。
- ・最後に一緒にたけふ菊人形で過ごした時間は、忘れることのない良い思い出です。
- ・食事量も減り、元気がなくなってきたYさんの今後の対応について話し合いました。結果として、できるだけご本人の意志を尊重し「飲みたい」「食べたい」「起きたい」という本人の希望に沿えるように、お世話させていただきました。
- ・ご家族の方がYさんの気分転換に、外出や散歩に連れて行ってくれたときのYさんの表情は笑顔でいっぱいでした。ご家族の存在はとても大きなものだと感じました。



たけふ菊人形へ外出し、笑顔いっぱいのYさん

生活を送ることができました。また、ご家族が来られると、とてもうれしそうに会話を楽しまれていたことが印象的です。

Yさんの好きな食べ物や差し入れてくださると、食欲がないときでもおいしそうに召し上がっていました。Yさんにとってご家族の存在はとても大きなものと気づかされました。

## ご家族と想いを共有

偲ぶ会での職員の思いは、お便りにしてまとめ、足羽利生苑で行われる彼岸法要の日にご家族にお渡ししています。

その思いをご家族に知っていただくことで、改めてご冥福をお祈りすると共に、その方への思いをご家族と共有することができそうです。Yさんのご家族からも次のような思いを聞かせていただきました。

きた職員個々から、感じた思

いや気持ちがたくさん出てきます。中には涙ながらに思い出を話す職員もいます。

今回の偲ぶ会では、Yさんの支援について振り返

りました。

Yさんは、長年生活している自分のお部屋に親しみを持っていました。そこで、今までと変わりない生活を

送っていただくために、

最期までご本人のお部屋

で過ごしていただき、静養室への移動は行いませんでした。

その結果、Yさんはなじみあるお部屋で安心して

## Yさんのご家族より

家に帰省したときに、母はよく時計を見ては「もうそろそろ、利生苑に帰らなあかな」と話をしていたのを覚えています。母にとって足羽利生苑での生活がとても住み心地のよいものだったのだと思います。

体調が悪くなり自分で食事をとれないときでも、私たちに「ちゃんとお飯食べてるか？」と気づかってくれた事は今でも忘れません。

利生苑の皆さまには、お世話になりました。本当にありがとうございます。

このような、言葉は職員  
の心の励みになります。

## 職員さんの心の支え

Yさんが亡くなられたとき、職員は「Yさんにと

って満足のいくケアができたのだろうか」「自分はYさんにもっとしてあげられることはなかったのか」など、自責の念にかられることがあります。

しかし偲ぶ会を行うことで、Yさんと一緒に過ごした時間の中で感じた喜びや、自然に笑顔が出るようなかわりができたことに気づきます。

そのことで、利用者の方の死に直面した職員の方は支えられ、次の利用者の方への支援につなげることができそうです。

## 死と向き合い よりよい支援を

偲ぶ会は利用者の方との思い出や、職員としてのかかわりを振り返る場です。どのような支援がその人の喜びと安心につながったのか、考え確かめることができます。それは、今後の私たちの支援のあり方を方向づける指針となる、

大変重要なものです。

会を重ねる度に、利用者の方が安心して過ごしていただけるように、細やかな声掛けや、利用者の方の想いを傾聴し受けとめ、気持ちを含めて接しようという思いが強くなります。

また、ご家族も一緒に介護に参加していただけるような関係・環境づくりを行い、かけがえのない時間を過ごしていただけるよう支援させていただきます。

利用者の方に最後までかわられたことを感謝しながら、一瞬一瞬のふれあいを大切にしていきます。



あふれる想いをかたちに

## みんなの広場

## こんな人いますよ



ジャパンカップ地区予選 北陸大会にて 平成20年6月



明るく元気に  
頑張ります☆

足羽利生苑デイサービス職員の前田恵さんは、福井県で唯一の社会人チアリーディングチーム「WENDYS」に8年間所属し、リーダーを務めています。

昨年、足羽学園・足羽更生園の夏祭りでは演技を披露し、利用者の方々は「もちろん、ご家族や職員にも大変喜んでいただきました。」

チアリーディングはとても華やかですが、体力が必要不可欠です。前田さんは週に3〜4回練習をして、技を磨いています。そして一年を通してさまざまな活動を行っています。

「福井県にチアリーディングを広げるために、今後も活動の機会を増やしていきたいです」と意気込みを語る前田さん。今日も前田さんは元気いっぱい跳ね回っています。